

## 年譜一研究科設置準備から各専攻設置まで

- 1991年  
(平成3年) 文部省：大学設置基準大綱化、文部大臣諮問機関「大学審議会」方針  
(大学院教育の充実)
- 1992年  
(平成4年) 本学において学内改革の検討がスタート（主として学費改定、収容定員調整等）
- 1994年  
(平成6年) 1月25日、本学において「大学院設置検討委員会について」学長案提出
- 2月10日、第1回大学院設置検討委員会開催（於、学長室）  
委員：渡久地朝明教授（商経学部経済学科）、高橋俊三教授（文学部国文学科）、波平勇夫教授（文学部社会学科）  
※委員長は互選により波平教授に決定。  
学長より同委員会委員長に対し「大学院設置基本構想について」諮問。  
（4か月で10回の会議を開催）
- 6月9日、申請業務に関する文部省大学院設置事務室担当官との事前調整。（大学院基本構想持参）  
※出張者：波平大学院設置検討委員会委員長、高橋委員、小熊教学部長、宮里企画課長。
- 6月20日、同委員会委員長より学長に対し「大学院基本構想について」答申提出
- ・大学院教員担当可能教員の確保
  - ・文学部を基礎とする修士課程の設置
  - ・沖縄の大学院としての特色を打ち出せる研究科（沖縄文化研究という趣旨と目的）
  - ・昼夜開講制（生涯教育、社会人教育重視）
  - ・申請時期は1996年（平成8年）、設置年度は1997年（平成9年）4月とする。
- ※その後、長期計画研究委員会に大学院基本構想が提出され、検討が行われる。
- 11月9日、第6回長期計画研究委員会において大学院修士課程設置が承認される。
- 12月14日、部局館長会において「大学院設置認可申請プロジェクトチームの設置について」（申し合わせ）が決定。  
※構成メンバーは、統括が知念仁照事務局長、4次長および企画課長。  
（大学院設置認可申請書作成業務）  
アドバイザーとして波平勇夫教授選出。
- 1995年  
(平成7年) 1月13日、第1回大学院設置プロジェクトチーム会議  
※以降、申請書作成、関連資料作成、大学院学則起草、関連諸規則整

- 備、施設、大学院予算、大学院図書整備、大学院入試準備など。
- 3月1日、部局館長会議において大学院設置準備調整会議の設置承認。  
・構成メンバー：平敷令治学長、波平勇夫文学部長、渡久地朝明経済学部長、高橋俊三文学部教授、小熊誠教学部長
- ※1996年（平成8年）5月22日まで計25回開催。
- 1996年（平成8年）  
1月10日、文部省大学院設置事務室担当官との事前調整。（事務的な質問事項の確認）  
※出張者：平敷学長、波平文学部長、小熊教学部長、玉那覇事務局長。
- 3月18日、文部省大学院設置事務室担当官との事前調整。  
「設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」、申請の概要を記した第2号様式、大学院学則（案）に関する指導。  
※出張者：波平文学部長、小熊教学部長、玉那覇事務局長、石垣事務局次長。
- 4月15日、第28回大学院設置プロジェクトチーム会議、申し合せ一部改正（統括を玉那覇昇常務とする）  
※同プロジェクトチームは、同年11月11日の通算32回目の会議をもって業務完了。
- 5月1日、文部省大学院設置事務室担当官との事前調整。（3月18日に指摘を受けた事項の修正に関する指導など）  
※出張者：波平文学部長、小熊教学部長、知念仁照事務局長、石垣事務局次長。
- 5月、各部局から職員各2名が加わり、資料作成、教員個人調書作成、書類点検、印刷等の膨大な作業を行う。
- 6月7日、文部省大学院設置事務室担当官との最終調整。（申請書類に関する最終確認と了解）
- 6月28日、文部省への正式な申請書類提出。  
提出書類は、学校法人寄付行為変更認可申請書正本副本各1部、総括表10部、大学院設置認可申請書（正本）1部、大学院設置認可申請書（抜刷）35部、教員個人調書15部、判定カード、審査対象教員一覧、専任教員一覧。  
※同時に、文学部社会学科収容定員増申請書類を申請。  
※申請書類提出出張者：平敷令治学長をはじめ総勢13名。  
申請書類の分量はバッグ十数個にのぼり、申請書類は沖縄の紅型の風呂敷に入れて提出。
- 6月28日、平敷令治学長より、文学部英文学科に基礎を置く大学院の構想として「比較文化専攻」試案が提示される。  
英文学科内に「構想委員会」を設置（学内諸機関の審議・承認を得て、本格的調査活動を開始）。  
学長試案（英文学科に基礎を置く構想）では無理であろうとの結論に

達し、代案として「欧米言語文化専攻」「英語圏言語文化専攻」などを検討。設立理念、カリキュラム等から判断し、最終的に「英米言語文化専攻」に落ち着いた。

その後、同専攻設置に向けて約1年半をかけて調査と議論を重ねる。学校法人寄付行為変更認可申請に関する文部省による審査会に向けた事前講習会を開催。

※熊本学園大学の目黒純一事務局長を講師に招いて、講習を行う。

石垣次長が審査会委員の立場で質問するという予行演習も実施。

学校法人寄付行為変更認可申請に関する文部省による審査会。

※出張者：平敷学長、波平文学部長、小熊教学部長、玉那覇常務理事、上間監事、知念事務局長、石垣事務局次長、与那覇庶務課長、知念企画課長代理。

大学院担当教員に関する判定結果の伝達（実質的な第二次審査、文部省に赴き、口頭伝達だけで判定結果を受ける。）

担当教員について審議会から若干の意見があったが、大過なく調整が完了。

※出張者：平敷学長、波平文学部長、玉那覇常務。

10月6日、大学審議会大学設置分科会の伊東信行先生（名古屋市立大学学長）による本学の現地視察。

図書館、大学院教室予定場所等を視察し、その場で講評が行われた。

（概ね申請通りであることが確認された）

12月19日、大学院地域文化研究科南島文化専攻設置に関する認可の知らせを受ける。

1997年  
(平成9年) 大学院事務室を設置。(屋嘉部勉課長のもとで大学院入試、大学院便覧等の大学院生受け入れ準備を行う)

2月28日、第1回大学院入試（募集10名）、一般選抜11名、社会人選抜23名、合計34名が願書を提出。合格者は19名。

4月1日、沖縄国際大学大学院地域文化研究科南島文化専攻開設。

4月4日、沖縄国際大学大学院開学式、第1回大学院入学式（厚生会館ホール）。

※大田昌秀沖縄県知事・代理東門美津子副知事、日本私大協会橋高重義会長・代理原野幸康事務局長が出席。

1998年  
(平成10年) 3月5日、「英米言語文化専攻」の設置について、文部省との事前協議を開始。

3月31日、地域文化研究科紀要『地域文化論叢』創刊

4月10日、「英米言語文化専攻」の設置に関する、文部省との事前協議（2回目）。※その後、5月22日（3回目）、6月4日（4回目）の事前協議を重ねる。

6月26日、文部省に対し「英米言語文化専攻」の設置に関する申請書

等を提出。

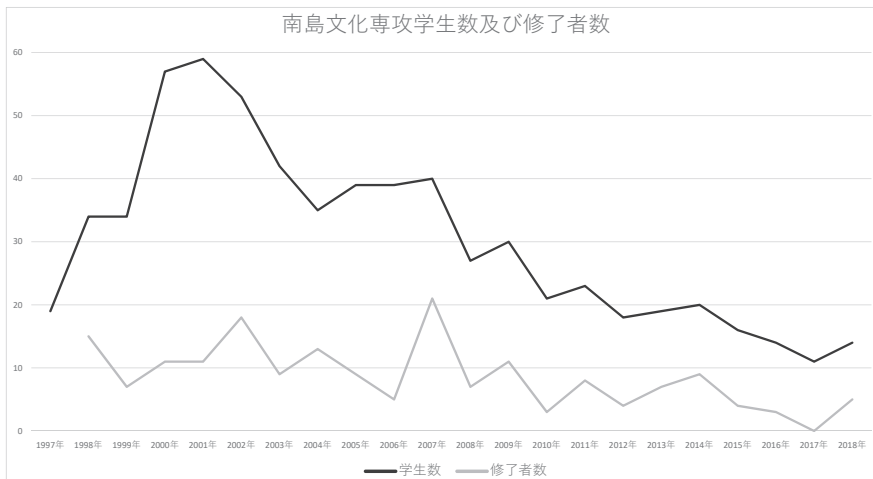
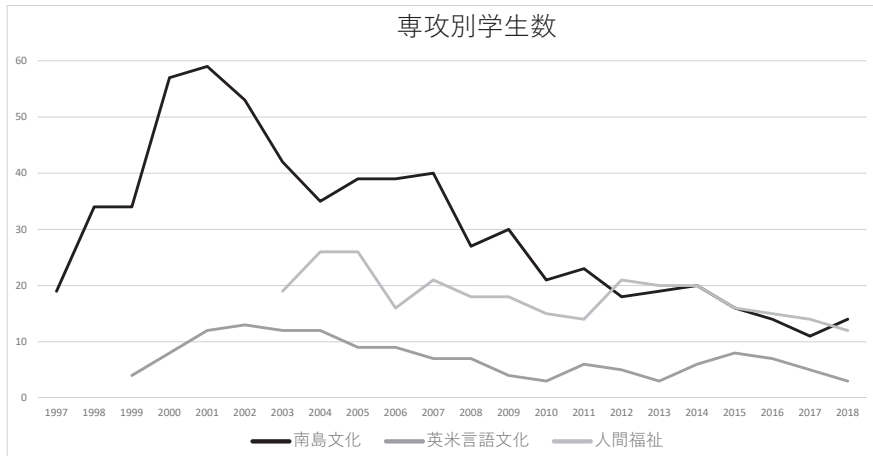
9月11日、文部省より、同専攻担当予定教員の審査結果通知伝達式（全員合格）。

12月22日、「英米言語文化専攻」の設置承認に関する正式通知を受ける。

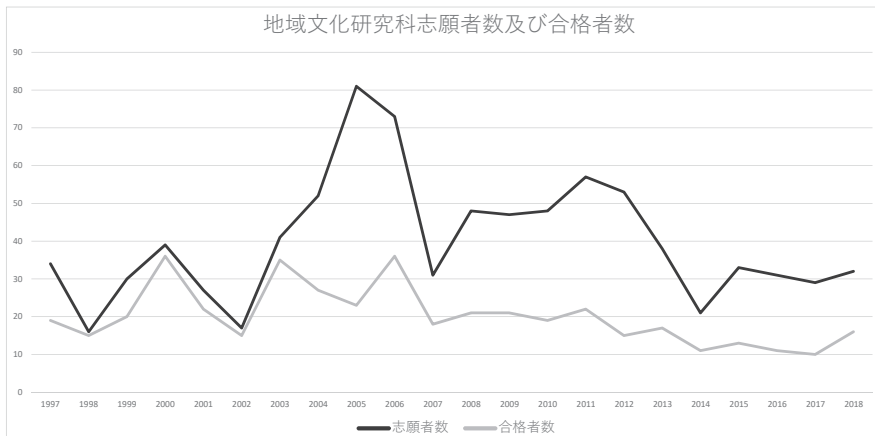
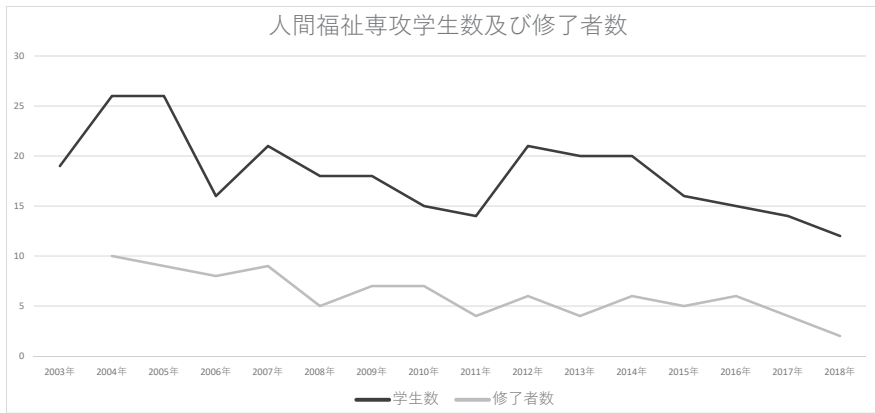
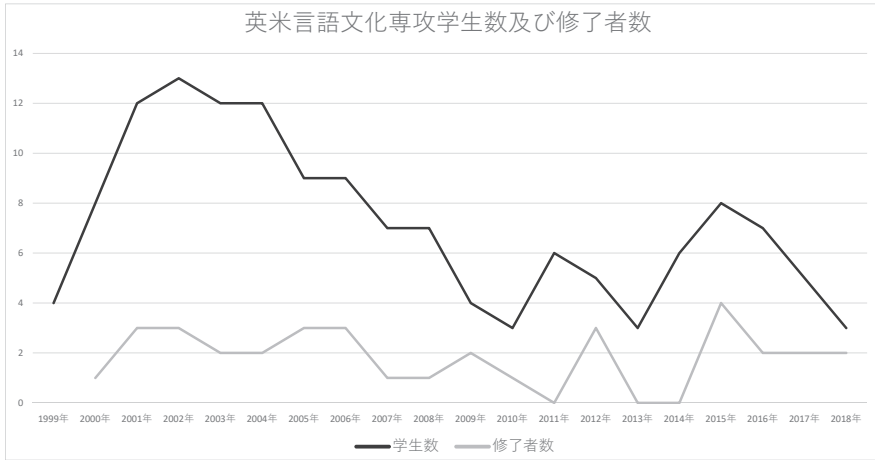
（この間、比嘉正範龍谷大学国際学部・前学部長よりご指導、ご鞭撻を受ける）

- 1999年  
(平成11年) 4月1日、地域文化研究科英米言語文化専攻開設。  
募集定員3名、収容定員6名に対し、4名の専攻学生が入学（英米言語文化領域1名、英語教育学領域3名）。  
4月5日、英米言語文化専攻開設祝賀会を挙行。
- 2001年  
(平成13年) 4月、英米言語文化専攻において新教育課程を採用。（英米言語文化領域を、英米文学系列と英語学・言語学系列に細分化）
- 2002年  
(平成14年) 12月19日、地域文化研究科人間福祉専攻設置承認。
- 2003年  
(平成15年) 4月1日、人間福祉専攻開設（社会福祉学領域、臨床心理学領域）。（19名入学）  
12月、地域文化研究科附属施設として心理相談室を設置。
- 2004年  
(平成16年) 4月5日、日本臨床心理士資格認定協会より大学院地域文化研究科人間福祉専攻心理学領域が「臨床心理士養成に関する第2種指定大学院」の指定を受ける。  
（指定期間：2005年4月1日～2009年3月31日）
- 2008年  
(平成20年) 4月15日、日本臨床心理士資格認定協会より大学院地域文化研究科人間福祉専攻心理学領域が「臨床心理士養成に関する第1種指定大学院」の指定を受ける（指定期間：2009年4月1日～）

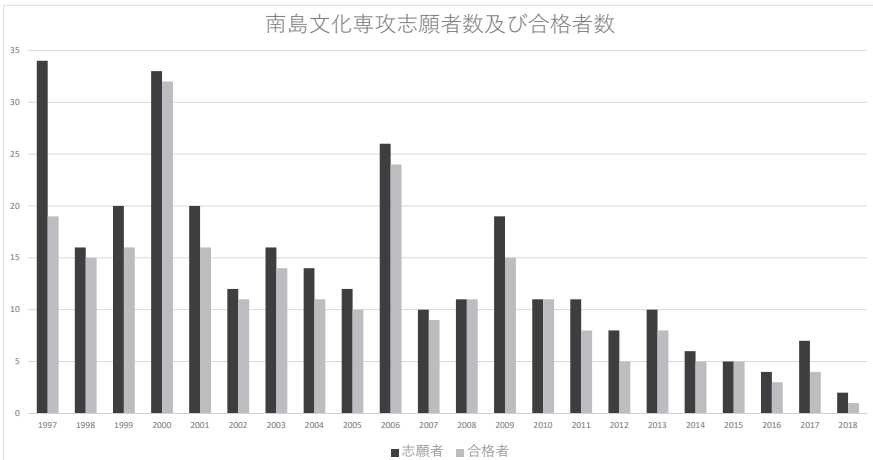
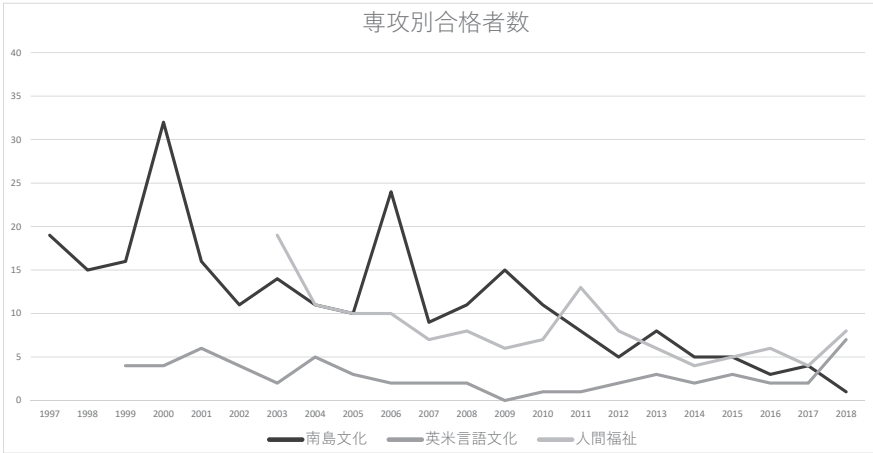
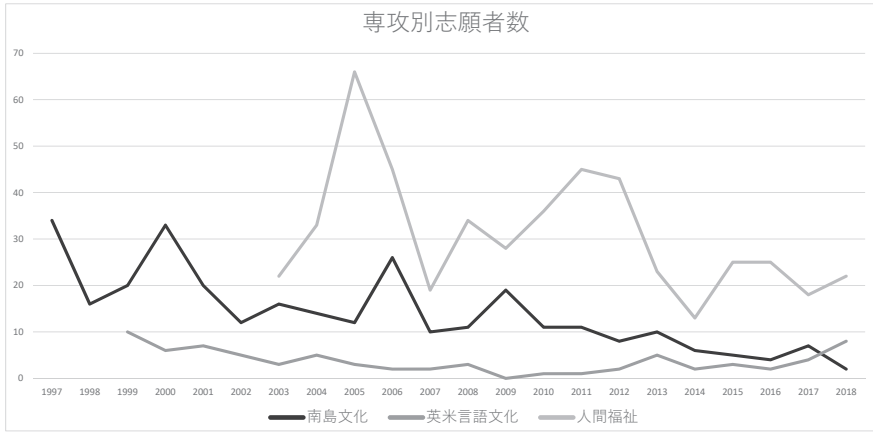
関連統計－専攻別学生数・修了者数・専攻・領域別志願者数・合格者数



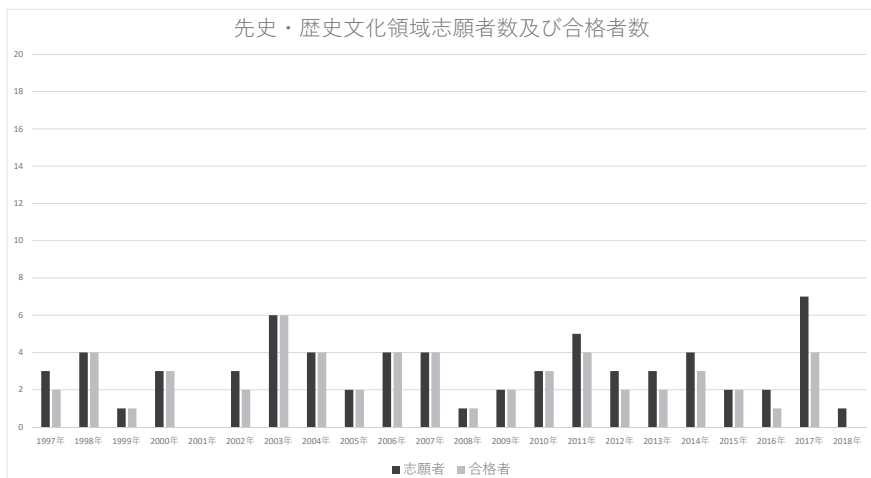
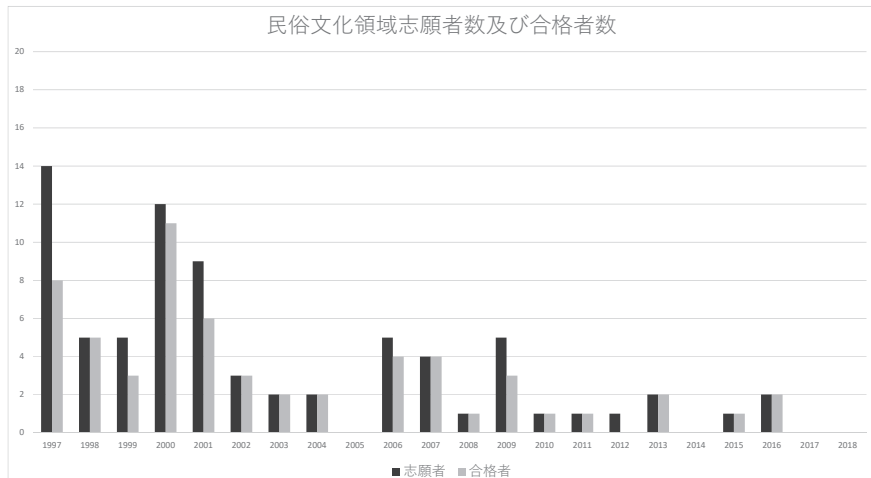
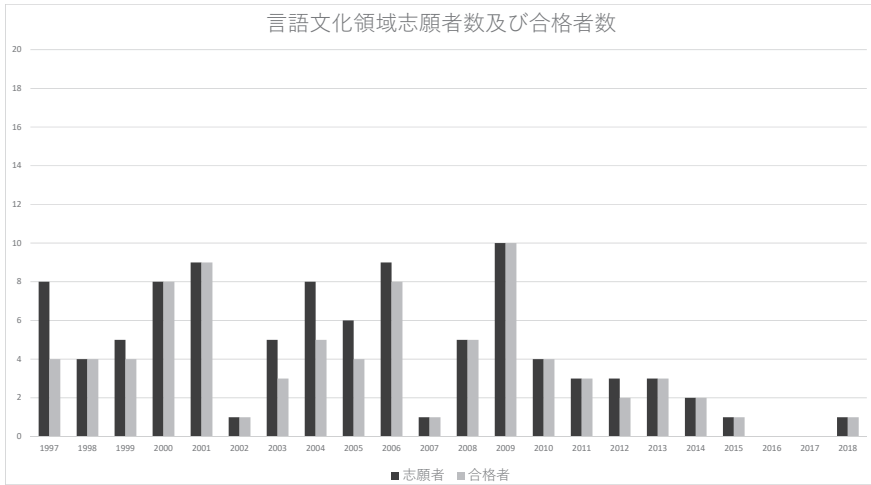
地域文化研究科のあゆみ



地域文化研究科のあゆみ

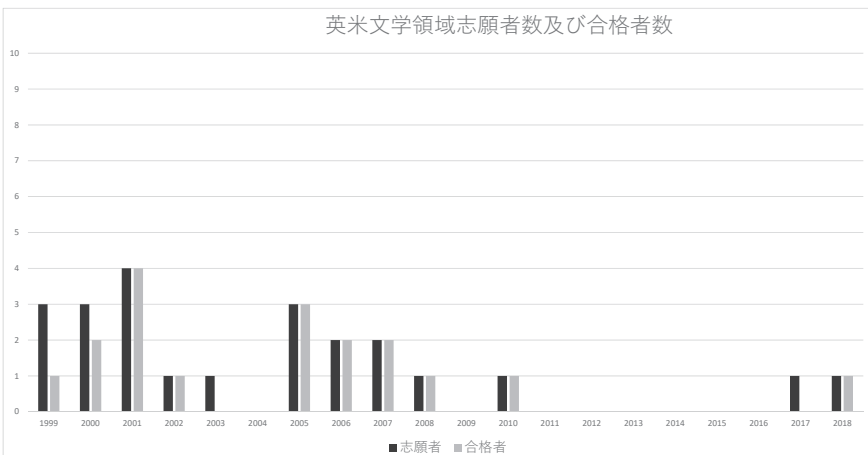
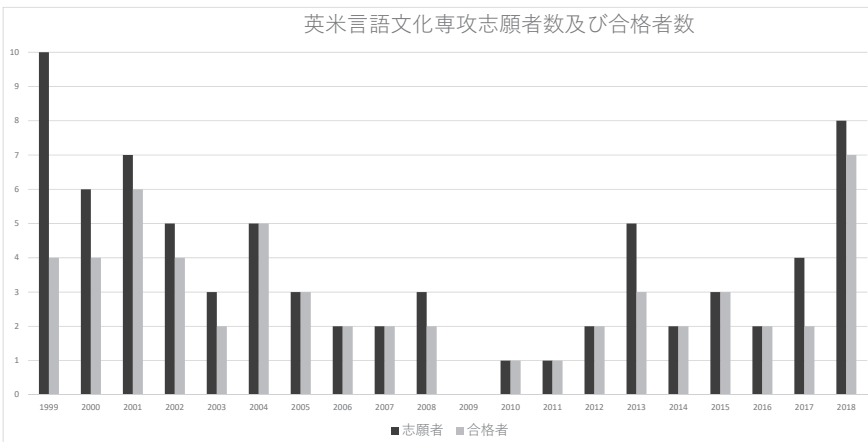
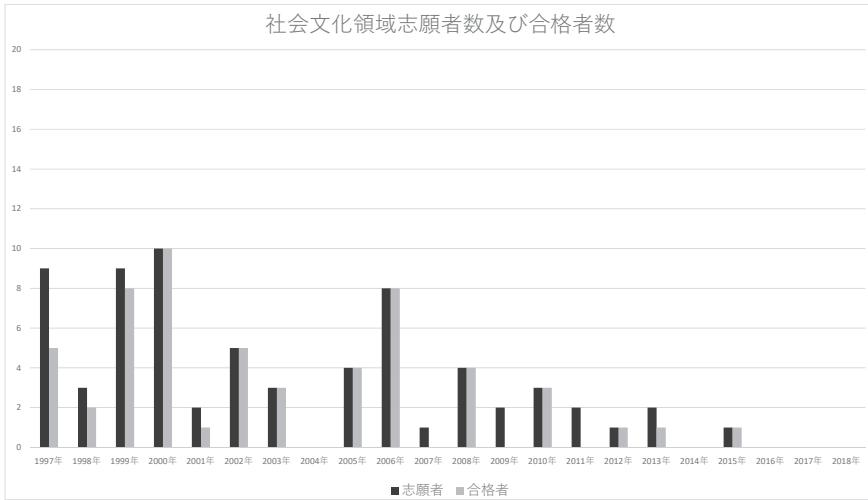


地域文化研究科のあゆみ

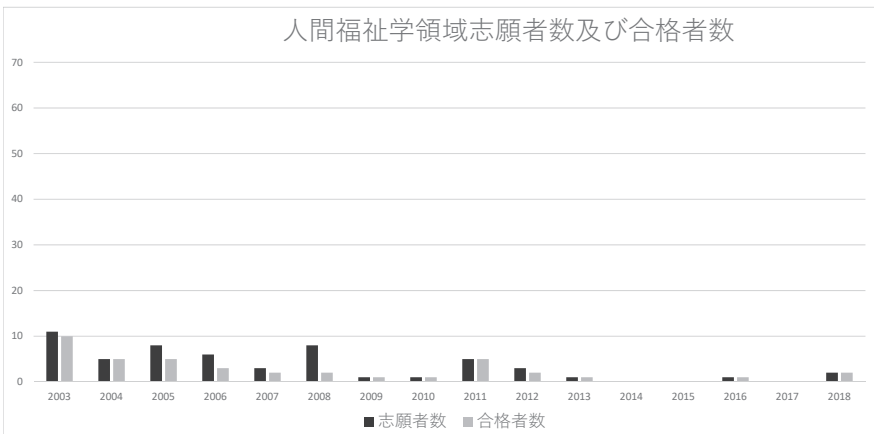
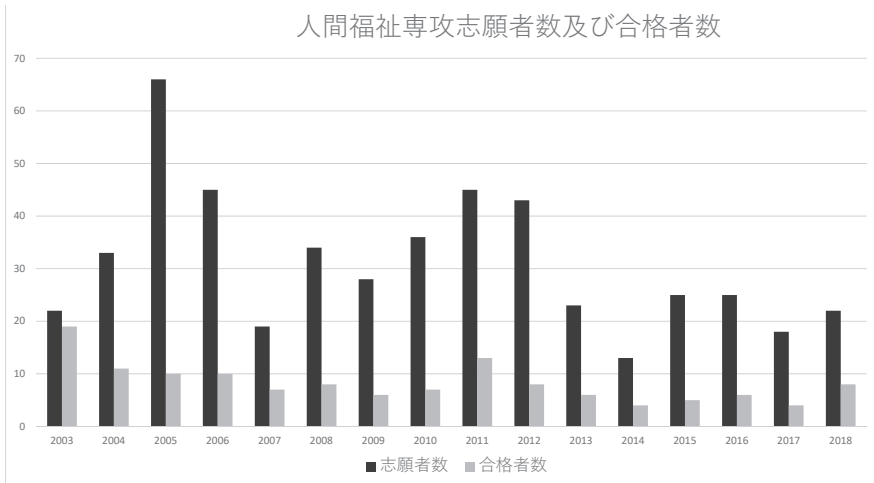
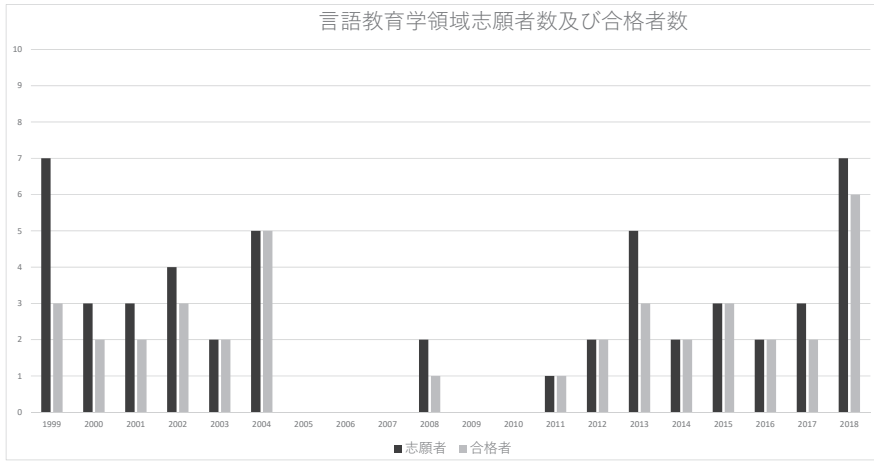


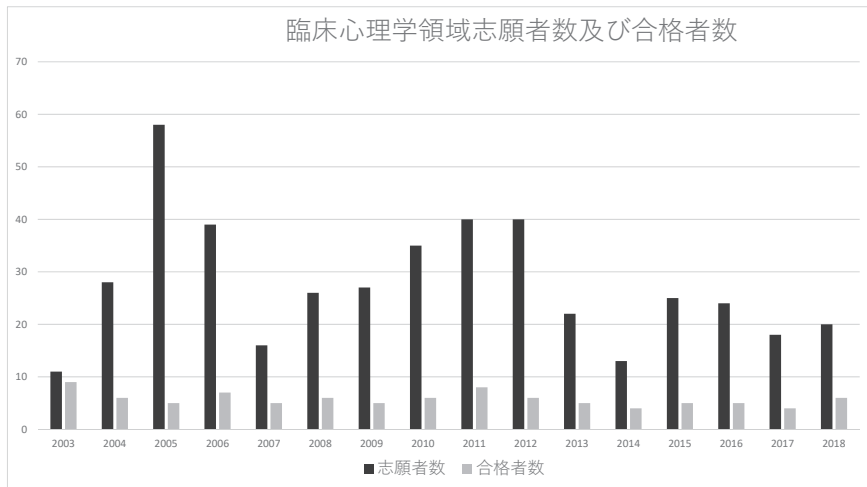


地域文化研究科のあゆみ



地域文化研究科のあゆみ





修士論文タイトル一覧（1997～2019年）

※表記は入学年度順

南島文化専攻			
修了	学生氏名	領域	修士論文題目
1999	瀧澤 正	言語文化	日本の洪水神話について
1999	東恩納 みさき	言語文化	琉球方言の植物語彙に関する研究
1999	吉濱 聡子	言語文化	『平敷屋朝敏文集』の研究
1999	米城 睦	言語文化	与那国方言アスペクトの研究
1999	石川 朋子	社会文化	沖縄南洋移民に関する一考察
1999	エルサムニー イブラヒム	社会文化	エジプトシナイ半島運河町の戦争体験と戦後処理の考察 —沖縄の戦争体験と戦後処理問題も視野に入れて—
1999	河村 真清	社会文化	職場における組織行動の比較文化的考察 —他府県企業の 沖縄支店・支社を中心に—
1999	鈴木 進一	社会文化	沖縄における高齢期の学習活動と「生きがい」に関する一 考察
1999	松島 清美	社会文化	ジェンダーからみた沖縄の位牌継承意識についての一考察
1999	上原 静	先史 歴史	琉球の古瓦研究 —高麗系瓦と大和系瓦の型式学的研究—
1999	加治 順人	民俗 文化	沖縄の神社と神職に関する一考察 —沖宮比嘉宮司の神観 念と教義を中心に—
1999	儀間 淳一	民俗 文化	沖縄の伝統的製塩業の事例研究 —沖縄市泡瀬・伊良部町・ 豊見城市宇与根の場合—
2000	高江洲 敦子	民俗 文化	沖縄の男性神役と男性祭祀集団の役割に関する考察 —来 訪神祭祀の儀礼を中心に—
1999	平敷 兼哉	民俗 文化	旗頭の基礎的研究
1999	前田 一舟	民俗 文化	沖縄本島中部・屋慶名の葬制
1999	宮城 昭美	民俗 文化	屋敷神をめぐる民俗 —沖縄市宇池原の事例を中心に—
1999	宮城 利旭	民俗 文化	近世村落の発祥と移動 —沖縄市登川村落の事例を中心に —

2000	幸喜 淳	民俗文化	沖縄の村落風水に関する一考察
2000	武田 邦恵	民俗文化	沖縄本島の鍛冶信仰とその現状
2000	仲田 邦彦	民俗文化	金武・並里の集落形成について
2000	藩 銀善	民俗文化	中国朝鮮族のシャーマニズム ー特に成巫過程を中心にー
2001	下地 安広	先史歴史	高宮暫定編年後期における沖縄諸島の対外交流・交易 ー弥生相当期の沖縄と朝鮮半島の交流を念頭に於いてー
2002	西銘 章	先史歴史	厨子研究における方法論の検討 ーいわゆるボージャー厨子の検討を主軸としてー
2000	山本 正昭	先史歴史	グスクから見たグスク時代の画期
2001	古波蔵 香咲花	社会文化	戦後初期沖縄におけるソーシャルワークの導入とその後の展開 ー軍社会事業委員（厚生員）の活動を中心にー
2005	山内 恵美子	言語文化	沖縄の伝承話に残る説話の原初形態 ー「犬婿入」を中心にしてー
2002	何 俊山	社会文化	母語喪失の社会的背景 ー沖縄人と中国モンゴル族との比較考察ー
2001	垣花 順子	社会文化	沖縄におけるケアリングに関する一考察 ーケアリングとセルフケアの関連を中心としてー
2001	金澤 美和	社会文化	空手における伝統の継承と変容
2001	金城 光政	社会文化	精神分裂病患者の「施設病」に関する研究 ー長期滞在者の生活史調査からー
2001	具志堅 邦子	社会文化	近代沖縄の民謡にみる家族意識に関する一考察
2001	末吉 重人	社会文化	前近代琉球の救済制度の考察 ー備荒制度の成立を手がかりにー
2001	張 雲武	社会文化	経済技術開発区の都市化過程 ー上海浦東新区を事例としてー
2001	宮里 聡子	社会文化	沖縄米軍基地労働者の就業行動と職業生活満足度
2001	安座間 充	先史歴史	琉球諸島・弥生時代併行期における交流・交易と地域 ー当該期搬入土器およびいわゆる「弥生系土器」を主素材としてー
2001	井口 学	民俗文化	沖縄の字誌づくりにみる地縁結合と地縁意識に関する考察 ー字誌づくりの担い手側の問題を中心にー

2003	池宮城 亜紀	民俗文化	宮古諸島における洞穴と世界観に関する一考察 —洞穴泉をめぐる祭祀儀礼の分析をとおして—
2005	新垣 重雄	言語文化	沖縄県八重山地方の歌謡に関する考察 —石垣市宮良集落を中心に—
2004	宇根 慶子	言語文化	琉球和文学の時代と作品 —『思出草』を中心に—
2004	武内 真理子	言語文化	琉球文学にみる「月」についての考察
2002	趙 志剛	言語文化	「琉球譚」の言語学的研究
2002	新垣 智巳	社会文化	沖縄返還協定における対米放棄請求権の処理 —人身損害を中心に—
2002	古謝 安子	社会文化	小離島の高齢者介護をめぐる親族ネットワーク機能に関する研究 —座間味村の事例を中心に—
2003	島袋 孝	社会文化	沖縄県における高校生の障害者イメージに関する研究 —福祉教育における交流体験との関係を中心に—
2002	唐 宏英	社会文化	中国における老親扶養意識に関する研究 —四川省を事例として—
2002	仲井間 静香	社会文化	「地球市民」を創出する平和教育のカリキュラム開発 —ピース・メーカーおよびリーダー育成を中心に—
2003	ハイ エンカ	社会文化	「一人っ子」時代における中国の教育改革 —受験教育から素質教育への転換—
2003	前城 努	社会文化	沖縄県における統合教育の研究 —沖縄県浦添市の事例研究を中心に—
2003	若月 元樹	社会文化	沖縄島南部大度海岸はなぜウミガメ産卵地として残ったか
2002	島袋 春美	先史歴史	奄美・沖縄諸島出土の貝鍾の形態的検討とその推移 —民俗事例にみる漁網鍾の実証的研究—
2003	浅川 英美	民俗文化	墓地と基地 —嘉手納町における古村と新村の墓を対象として—
2002	亀田 篤	民俗文化	沖縄県出身南洋移民の研究 —「移動」からのアプローチ—
2003	武智 万寛	民俗文化	沖縄における位牌の移動から見た位牌祭祀の一考察
2002	田中 藍	民俗文化	那覇市の市場に関する民俗学的考察 —特に市場の担い手と〈相対売り〉を中心に—
2002	多良間 利絵子	民俗文化	沖縄の家屋における座席配置に見られる対立関係 —南風原町の事例から—

2002	仲里 亜希子	民俗文化	沖縄のシャーマン・プリースト論をめぐる一考察 — 白保の女性司祭ツカサとパカヌファの就任過程と職能分析から—
2002	長嶺 操	民俗文化	沖縄における村落獅子の研究 — 木造村落獅子を中心に—
2002	前原 直子	民俗文化	石垣島における祭司制の動態的研究 — ツカサのライフヒストリー及び職能にみる「伝統」の継承と生成—
2003	丸山 陽子	民俗文化	沖縄における癒しの過程 — シャーマンの職能者による物語の創造—
2003	宮城 聖子	民俗文化	オキナワンロックのエスノグラフィ — 沖縄を巡る音楽と若者アイデンティティの現在—
2003	川瀬 拓也	言語文化	『おもろさうし』におけるグスク
2003	呉 海燕	言語文化	『琉球国旧記』の研究 — 『琉球国由来記』との比較を通して—
2005	平良 美和	言語文化	口承説話に見える沖縄の井泉 — 井泉に見える水—
2003	中村 透	言語文化	説話文学に見られる「蛇」 — 今昔物語集を中心に—
2005	仲村 稔	言語文化	南島遊行芸の詞章の研究
2003	松田 留季	言語文化	『遺老説傳』研究 — その世界観について—
2005	三浦 加代子	言語文化	俳句指導の一考察 — 風土と俳句—
2005	宮城 奈津子	言語文化	南島歌謡にみる航海
2004	新城 百恵	民俗文化	波照間島における葬墓制と祖先観をめぐる一考察
2003	稲垣 千明	民俗文化	泡盛をめぐる民俗学的考察 — その受容と変遷—
2003	山本 成	民俗文化	ハワイのヤング・オキナワンのエスニシティに関する研究
2003	與那嶺 江利子	民俗文化	エイサーにみる青年会活動とその展開 — 沖縄県沖縄市における青年会活動を中心に—
2005	砂川 いつき	言語文化	南島の異類婚姻譚についての研究 — 動物異類婚姻譚を中心に—
2004	安良城 米子	社会文化	琉球・沖縄の平和思想 — 「非暴力」からのアプローチ—

2004	城間 正和	社会文化	高校日本史教科書における沖縄・朝鮮・韓国についての記述の比較研究（近現代）
2006	金城 英樹	先史歴史	チョウセンサザエの加工法についての一考察 — 沖縄県宮古島アラフ遺跡の出土資料を中心に —
2004	城間 義勝	民俗文化	沖縄のミルク神に関する研究
2004	田中 智恵	民俗文化	大神島における祭祀組織のシャーマニズム的研究 — 神に選ばれる女性神役・ウヤガン —
2004	宮平 盛晃	民俗文化	沖縄における《シマクサラシ儀礼》の民俗学的研究
2005	王 山	言語文化	『今昔物語集』の研究 — 孝養譚を中心に —
2005	宜保 美幸	言語文化	組踊の台本の動詞のテンスとアスペクト
2006	豊島 緑	社会文化	沖縄の旧軍飛行場用地問題 — 「唯一の地上戦」からみた国民保護法と補償 —
2005	柳下 換	社会文化	「教育」のオルタナティブとしての「学び」の可能性についての一考察
2005	溝田 康司	先史歴史	曽畑式土器を指標とした九州島における縄文時代前期の様相 — 主として動植物遺体・GISを用いた地形分析及び遺跡分布から概観した九州の古環境 —
2006	渡邊 富彦	先史歴史	風土病マラリアからみた八重山群島の近現代史
2005	佐久川 志麻	民俗文化	祭祀儀礼の構造分析と他界観・世界観の一考察 — 八重山諸島における異装神祭祀を中心に —
2005	平井 芽阿里	民俗文化	宮古島西原における祭祀組織の考察
2005	山根 光正	民俗文化	士族門中における分節構造とその特徴 — 蔡姓を中心として —
2006	具志堅 新	言語文化	崎山多美研究 — アイデンティティ・言語の二重性をめぐる葛藤 —
2006	仲本 陽兵	言語文化	宮古歌謡の研究 — 生産叙事歌謡と英雄叙事歌謡の比較研究 —
2006	宮城 茂雄	言語文化	「戌年御冠船踊の研究」 — 『校註琉球戯曲集』組踊上演記録資料「ト書」の考察 —
2007	林 仙花	言語文化	「琉球官話」における沖縄語の研究 — 『広応官話』をめぐって —



2008	小松 瑠美子	先史 歴史	太平洋戦争下、南北アメリカの日系移民強制収容・抑留の実態とその背景 —ペルー移民の聞き取りを通して—
2008	鈴木 匡	先史 歴史	沖縄の酒「泡盛」の系譜に関する一考察
2006	宮城 貴奈	先史 歴史	第二次世界大戦後、台湾で「留用」された日本人について —沖縄出身者を中心に—
2006	玉城 夕貴	民俗 文化	古宇利島の祭祀組織と年中祭祀の構造に関する考察
2007	鈴木 潤三	言語 文化	大村はま氏の「書くこと」に関する指導の研究 —インベンション指導を中心に—
2007	名城 歩	言語 文化	組踊における台詞の研究 —動詞の活用を中心として—
2007	山下 紋子	言語 文化	豊見城の方言語彙に関する研究 —動物語彙を中心として—
2008	古賀 徳子	社会 文化	沖縄における日本軍「慰安婦」制度の展開
2007	竹島 秀和	社会 文化	沖縄県における飲酒運転の実態と規範意識に関する実証的研究
2007	横田 雄一	社会 文化	ハンセン病差別被害からの人間回復に関する史的研究 —沖縄・奄美の事例—
2007	安斎 英介	先史 歴史	貝製石器からみた先島諸島の先史文化の展開
2008	登 真知子	先史 歴史	輸入陶磁器からみた南山城跡の研究 —主に青磁碗の分析から—
2008	伊藤 幸太	言語 文化	八重山歌謡研究 —「古謡」から「節歌」へ—
2008	上江洲 美津子	言語 文化	沖縄の四大歌劇の研究 —四大歌劇の成立について—
2008	志良堂 愛	言語 文化	沖縄県読書教育史の研究 —昭和40年代以降の読書教育3団体を中心に—
2008	知念 志穂	言語 文化	文学教育の実践的研究 —高等学校における詩教育を中心に—
2008	林 佳代子	言語 文化	「日本霊異記」の研究 —動物説話を中心に—
2009	銘苺 純一	言語 文化	二つの「筆禍事件」にみる「琉球人」表象の考察 —広津和郎「さまよへる琉球人」と久志美沙子「滅びゆく琉球女の手記」をめぐって—
2015	菊池 裕子	言語 文化	宮本百合子研究 —「伸子」成立をめぐって—

2008	新垣 富佐子	社会文化	社会的背景からみた教員のストレスに関する一考察
2008	兼久 里子	社会文化	不登校生徒に対する支援の現状と課題 — 沖縄県下適応指導教室における支援の実態より考察 —
2008	金城 達也	社会文化	沖縄本島・山原地域における自然資源の伝統的な利用形態 — 共同利用資源の共的管理の構築に向けて —
2008	土屋 なおか	社会文化	沖縄における郷友会活動の変容 — 郷友会と母村の相互関係 —
2008	西谷 孝二	社会文化	沖縄戦における「集団自決」・「強制集団死」論の史的分析
2008	嶺井 貴子	社会文化	沖縄への「移住者」と地域社会との関わり — 石垣島を中心に —
2008	山入端 太一	社会文化	ウチナーンチュのエンパワメントの確立 — 沖縄音楽社会史の変遷を通して —
2008	横尾 昌樹	先史歴史	琉球弧における縄文時代前期の様相
2015	亀田 亘	先史歴史	沖縄戦における日本兵による住民殺害事件に関する研究
2008	阿利 よし乃	民俗文化	波照間島における祭祀組織の研究
2010	島袋 幸司	民俗文化	エイサーの持続と変化に関する動態的研究
2008	高嶺 亨	民俗文化	沖縄におけるアブシバレー儀礼の研究
2008	野原 優一	言語文化	宮古島野原方言の助詞の記述的研究
2010	上里 利恵子	先史歴史	近代の沖縄における看護婦養成開始に関する一考察 — 沖縄県立沖縄病院付属看護婦養成所の開設を中心に —
2009	喜納 大作	先史歴史	運用された地図としての「首里古地図」に関する一考察
2009	宮城 弘樹	先史歴史	貝塚時代後期の歴史的な位置付けについて
2009	神田 彩智	民俗文化	カチャーシーの場における自己認識の表出
2009	木村 甫	民俗文化	御嶽の植物相についての民俗的研究
2009	山川 久乃	民俗文化	村落祭祀の持続に関する動態的研究

2010	伊野波 優美	言語文化	山之口貌の詩篇における故郷＝沖縄の表現の変容
2010	伊礼 正美	言語文化	ウスデーク歌の研究
2010	佐々木 和子	言語文化	八重山古歌謡の表現の研究
2010	比嘉 教乃	言語文化	学校図書館を活用した実践的研究 ―小学校・中学校・高等学校における国語科教育を中心に―
2010	伊計 行雄	社会文化	沖縄の生涯学習における公共図書館の現状と課題
2010	川満 美幸	社会文化	沖縄の平和教育の変遷と課題 ―6.23 特設授業を中心に―
2010	吉川 由紀	社会文化	オーラル・ヒストリーの可能性 ―元皇軍兵士の戦中・戦後体験を通して―
2010	清水 史彦	先史歴史	占領期の沖縄における衛生運動の諸相 ―マラリアと米軍基地との関連を中心に―
2010	チュン メンホン	先史歴史	カンボジアにおける前アンコール時代の土器文化 ―特に水注土器(クンディー)―
2016	勝連 みゆき	言語文化	超高齢化社会における生涯学習と図書館
2011	木戸 茉里	言語文化	「やおい」的視点からみる江戸川乱歩の作品世界 ―「孤島の鬼」を中心に―
2014	金城 貴子	言語文化	沖縄のメディアにおける季語の一考察 ―『沖禎介追悼句』を中心に―
2012	島仲 小百合	言語文化	ドラマ教育を取り入れた国語科教育の展望 ―言語運用能力を育む豊かな言語活動のあり方を探る―
2011	友利 泰子	言語文化	宮古島城辺方言「補助用言」の研究
2011	松本 小百理	言語文化	源氏物語研究 ―王権と視線―
2012	上江洲 安宏	民俗文化	沖縄の仏教寺院と地域社会 ―沖縄仏教会及び盛光寺を中心に―
2011	金城 友美	民俗文化	座間味村阿嘉における村落祭祀と祭祀組織に関する研究
2012	勝連 亜衣	言語文化	認識変容を促す詩の指導
2012	國仲 洋江	言語文化	絵本の論理 ―絵と文章の関わりを意識した国語科の授業―

2012	湧川 菜央	言語文化	大村はまにおける「聞くこと」の指導に関する研究 — 能動的な聞き手を育てる指導—
2012	津覇 美那子	社会文化	占領期沖縄における長期欠席児童生徒 — 教育史料から見るその実態と支援形態—
2013	西江 千尋	社会文化	那覇市の市街地における観光的地域開発と異質性排除 — 自己規律的主体構築と地域の相互管理を中心に—
2012	福原 りお	先史歴史	沖縄県出土の人形について — 人形の生産・流通・系譜に関する—考察—
2013	島 香菜子	言語文化	『今昔物語集』論 — 巻二十八を中心に—
2013	島袋 寛子	言語文化	思考力を養う話し合い指導のあり方
2013	古堅 裕之	言語文化	太田良博研究 — 「黒ダイヤ」を中心に—
2014	喜久里 瑛	社会文化	アルゼンチンの沖縄系移民における「伝統」の継承とエスニシティの再編 — エイサーの担い手女性3世からの—考察—
2014	鍋田 尚子	先史歴史	ベトナム・フエ地域のオンタオ祭祀とオンタオをめぐる物質文化 — 物質文化を通してフエ地域の特徴とオンタオの起源を探る—
2014	金城 絵里香	言語文化	宮古島市久松方言の助詞・助動詞の記述的研究
2014	金城 琴乃	言語文化	松浦理英子研究 — 他者 / 関係性への問い—
2014	比嘉 和史	言語文化	国語科教育におけるコミュニケーション能力の育成
2015	上田 寿美	先史歴史	スペイン・バスク地方の伝統食文化 — 物質文化的視点から食文化の形成とその背景を辿る—
2015	上原 善男	先史歴史	ハワイにおける沖縄系移民による同郷団体の合併 — 糸満市人会を事例に—
2014	西田 愛華	先史歴史	公会運動について — 9名の請願代表と同時代新聞資料の検討から—
2015	善平 慎太郎	言語文化	谷川俊太郎初期詩編論 — 「初期詩編ノート」から「二十億光年の孤独」の成立過程を捉えなおす—
2015	與那嶺 眞裕	言語文化	琉球民謡の歌唱法と演奏法の研究
2015	砂川 恵美	社会文化	男女混合名簿から沖縄県の学校教育におけるジェンダー問題をみる
2015	平良 和輝	先史歴史	遺跡から出土した万年筆 — 南風原文化センター収蔵資料を中心に—

2015	田村 薫	先史 歴史	先史時代における石斧の用途について —読谷村内遺跡の石斧—
2019	上江洲 信恵	言語 文化	又吉栄喜研究 —初期作品を中心に—
2016	我喜屋 あゆみ	言語 文化	「更級日記」研究 —物語と人生—
2016	下地 勝貴	言語 文化	「今昔物語集」研究 —「にほひ」を中心に—
2016	安谷屋 正浩	先史 歴史	「グスクとは何か」 —グスクから見てえてくる琉球・沖縄社会の特質について—
2017	宮野 広秀	先史 歴史	戦後初期における軍作業と住民生活の実態 —軍作業に伴う人の移動を中心に—
2016	青山 優太郎	民俗 文化	針突の研究 —「民俗社会学」の視座から—
2017	玉城 まなみ	言語 文化	『琉球浄瑠璃』研究
2019	西本 真梨	先史 歴史	全軍労大量解雇撤回闘争で掲げられた「基地撤去」の方針 —1970-72年の状況—
2019	東江 真実	民俗 文化	沖縄における境界と異界観の変容 —遺老説伝から現代まで—
2020	奥平 大貴	先史 歴史	嘉徳Ⅰ式A土器、嘉徳Ⅱ式土器、嘉徳Ⅰ式B土器の土器文化の展開について
2019	奥原 三樹	民俗 文化	八重瀬町当銘・小城の「龕甲祭」に関する研究 —村落祭祀と地域組織の関係を中心に—
2019	中井 カンナ	民俗 文化	竹富島の仮面に関する基礎的研究 —ミルク神・鬼・サルの仮面を中心に—
2020	伊波 春奈	先史 歴史	A サインバーホステスからみる「アメリカニズム」の諸相 —1960年代コザにおける美容師・洋裁師との関係—
2020	大城 直也	先史 歴史	近世琉球後期における異国船対応を様相 —「異国御用帳」を中心に—
2020	楠瀬 康大	先史 歴史	琉球列島におけるヤコウガイに関する基礎的研究 —ヤコウガイ製貝匙の制作技法を中心に—

英米言語文化専攻			
修了	学生氏名	領域	修士論文題目
2005	安里 剛	英語教育	Integrating Process and Product Approaches for Communicative Writing in English Classes in Japanese Junior High Schools
2002	仲泊 まき	英語教育	A Study of English listening comprehension strategies
2001	比嘉 範泰	英米言語	A Tradition of the British novels by female authors from the romantic period through the Victoria
2003	宮里 公子	英語教育	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の評価—中学校における方略的能力からの評価法—
2002	高良 陽子	英米言語	The Dramatic Effect of Forest in Shakespeare's Comedies
2002	松堂 朋子	英米言語	English preposition errors of Japanese students
2004	上運天 美都子	英語教育	持続可能で効果的な社会人英語学習 —音声教材による授業実践研究を通して—
2003	照屋 尚久	英米言語	The Significance of Objectification of Migrants in the Intercalary Chapters of The Grapes of Wrath : Through Its Relation to the Narrative Chapters and Its role in the Novel as a Whole—
2004	比嘉 由直	英米言語	Samuel smiles's self-help : social background and the virtue of industry
2003	加治工 秀和	英米言語	A Cognitive Interpretation of Body-Part-Related Idioms : Japanese and English
2005	古波津 香	英語教育	Language Learning and Identity in International Schools in Okinawa
2006	上地 涼子	英語教育	The Effect of the Use of Shadowing as a Junior High School Classroom : Procedure for Oral Reading Practice
2006	根路 銘 みどり	英語教育	Establishing Self-Acceptance through Learning English : What the Language Education Is Possible to Do
2006	松田 由美子	英語教育	ホリスティックな視点の英語教育を求めて —「英語教師教育」の実践に学ぶ—
2007	嶺井 かおり	英語教育	Efficient and effective English vocabulary learning strategies : for advanced proficiency level learners
2007	中村 寛子	英米言語	Education or Desolation ? —Malcolm Xから音楽、そしてダンスの世界まで、修正を繰り返しながら継承されるRichard Wright's Native Son の Bigger と rat の性質—
2007	美里 奈々子	英米言語	The Riddle of the Serpent in Le Petit Prince : Some differences in French, English, and Japanese editions

2010	根間 俊彰	英米言語	A lexical analysis of Aches : English and Japanese, Laymen's and doctors'
2008	知花 真実	英米言語	Reading the wind in T.S.Eliot's the waste land
2010	兼久 美和子	英米言語	Kabakun, a Japanese pre-school reader : an in-depth analysis with discussion of the English translations
2009	長堂 智美	英米言語	Jane Eyre's integrated Growth into a Mature Woman of Christian Love and Human Love
2010	藤城 孝輔	英米言語	Metafiction as an Approach to the Memory of Okinawa : A Comparative Study of Go Takamine's Tsuru-Henry and Chris Marker's Level Five
2012	黄 嘉穎	英米言語	Seeing the Light in Eugene O'Neill's Last Play : Long Day's Journey into Night
2013	アントワーン フレロン	英語教育	English Education in Japanese universities through the lens of students' motivation A cultural case study of Okinawan students
2013	頼 郁芳	英語教育	The Application of Holistic Education to English Language Teaching and Learning : A Case Study of Japan and Taiwan
2016	東泊 亜弥乃	英語教育	How to Improve Japanese English Teachers' Competence of Teaching Cross-Cultural Understanding in Japanese English Education.
2017	須々木 絵理 沙	言語教育	バイリンガルかセミリンガルか? —沖繩におけるインターナショナルスクールの生徒・保護者及び卒業生の調査を通して—
2016	嘉手川 隼	言語教育	沖繩県内の日本語学校におけるネパール人学習者の現状と特徴について —A 日本語学校の事例を中心に—
2016	田里 ゆうこ	言語教育	English Education for Deaf and Hard-of-Hearing in Okinawa
2016	山本 徳子	言語教育	出現条件による「無助詞格」の認識度 —日本語学習者への提示をめざして—
2017	津覇 久子	言語教育	日本語初級学習者向けの時事読解教材『読んで社会とつながる』の開発の試み —非漢字圏の学習者に向けて—
2018	宇多川 みさ	言語教育	小学生高学年を対象とした英語語彙学習について —日本と韓国の比較—
2018	兼本 暖	言語教育	日本語教育における二人称代名詞「キミ」に関する一考察
2019	杉本 絵美	言語教育	外国につながる子どもたちの支援体制に関する一考察 —沖繩県の日本語支援担当者へのインタビューより—
2019	天願 千里佳	言語教育	沖繩県の事例から見る EPA 介護福祉士候補者の現状に関する一考察
2020	石本 るい	言語教育	「沖繩県米軍基地関係者」への文字学習支援に関する一考察

人間福祉専攻			
修了	学生氏名	領域	修士論文題目
2005	伊志嶺 勉	社会福祉	ホームレス間での都市雑業と食事の手段を中心とした類型の試み
2005	島村 枝美	社会福祉	社会福祉協議会の機能と発展への可能性 一県内10市社協の実践からみる社協機能の検討一
2005	高良 邦雄	社会福祉	児童養護施設出身者の大学等の進学に関する研究 一卒業と退学の諸要因一
2005	仲里 梨津子	社会福祉	児童養護施設における「家庭復帰」支援の実践から今後の支援について考える
2005	名城 健二	社会福祉	精神障害者に対する生活援助評価スケールの試作
2005	仲原 都	社会福祉	重症心身障害者とその家族の関係について 一地域で暮らす養護学校卒業後の重症心身障害者一
2005	池宮城 和加子	社会福祉	アメリジアンスクール・イン・オキナワの役割に関する一考察
2005	赤嶺 政信	臨床心理	痴呆性高齢者への心理的アプローチ 一郷土文化を媒介とした回想法一
2005	赤嶺 洋司	臨床心理	自己受容的な構えと脳損傷者における障害受容の関係
2005	金城 一二	臨床心理	障害高齢者の心身の変容に対する動作法のかかわり 一著しい転倒恐怖感を呈する一事例について一
2005	国吉 晃	臨床心理	不登校生徒の自己概念の検討とその変容の試み 一質問紙法と臨床面接法を通して一
2005	渡口 武雄	臨床心理	動作法による投手のピッチングフォーム改善の事例 一ピッチングフォームにおける軸足立ちの重要性一
2005	中嶋 真理	臨床心理	定時制高校における不登校経験者の行動変容の契機について 一モデリングを取り入れた面接の事例を通して一
2006	東江 克代	社会福祉	高等学校福祉関連学科生の高齢者イメージとその関連要因 一SD法による測定と比較一
2006	小寺 美也子	社会福祉	子ども時代に父親を亡くした子どもの悲嘆とその克服について 一あしなが育英会の「つどい」に参加した事例に焦点をあてて一
2006	玉城 活子	臨床心理	自閉症児と母親の関係の深化と母親の子ども理解の変化に伴う自閉症児の情動表出の変化
2006	内藤 直子	臨床心理	身体意識とストレスとの関連性について 一動作法によるストレス軽減の試みを通して一



2006	長間 雄生	臨床心理	動作法による一般的な自己効力感の変化の検討
2007	橋本 瑞子	臨床心理	高齢者の生きがい感に影響する内的要因の検討 — 自尊感情、情動的共感性との関係 —
2008	宮城 紫絵子	臨床心理	県内児童養護施設の心理療法担当職員における『印象に残る臨床体験』に関する研究 — 心理職による「語り」から —
2006	宮良 尚子	臨床心理	動作法による母性不安低減の試み
2007	玉城 早矢香	社会福祉	在宅高齢者の住まいに対する意識について
2007	仲村 小夜子	社会福祉	知的障害者施設退所者の退所理由と退所時の対人関係や問題行動等との関連について — 沖縄県内における知的障害者施設を対象として —
2007	包 玲玲	社会福祉	認知症高齢者グループホームに勤めているスタッフのストレスサーについて — 主観的ストレス感の「高」「低」タイプ群との関連性 —
2007	山城 久弥	社会福祉	沖縄における在宅高齢者の役割と生活満足度の関連について
2007	新垣 奈央	臨床心理	日常的なメンタルヘルス対策としての「思考記録表」活用の試み — 抑うつ傾向及び不健康感を持つ学生における認知の変容、精神的不調感の改善に「思考記録表」が及ぼす効果の検討 —
2007	豊見山 ゆかり	臨床心理	心身症的な不定愁訴を訴える生徒に対する描画によるフォーカシングを取り入れた面接の有効性の検討 — 身体症状の背景にある身体感覚に着目して —
2007	仲眞 健太	臨床心理	動作法が非運動者のボディ・イメージに及ぼす影響 — BPSE と身体満足度について —
2008	吉元 なるよ	臨床心理	グループカウンセリングによる介入が子どもを亡くした親の心理的適応に及ぼす影響 — カウンセリング場面における参加者間の相互作用に着目して —
2010	砂川 亜紀美	社会福祉	地域福祉の測定指標としてのソーシャル・キャピタルの応用に関する研究
2008	當間 泰子	社会福祉	重度障害児を抱える母親の子どもの障害受容の過程
2008	石田 知士	臨床心理	失敗体験の筆記表出が大学生の失敗認知傾向・自己効力感および心身のストレス状態に及ぼす影響
2008	大澤 亨子	臨床心理	中高生に対する少人数グループ認知行動療法の実践と効果
2008	神谷 勝也	臨床心理	自閉性障害児を持つ母親に対するビデオ・フィードバック面接を用いた母子相互作用への支援

2008	木内 寛長	臨床心理	過去展望に焦点を当てた時間的展望の変容と自尊感情の関連について —ライフヒストリーグラフを用いて—
2009	斉藤 幸輝	臨床心理	沖縄県の高齢者による過去の語りに関する研究—グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた戦争体験の捉え方について—
2008	滝 友秀	臨床心理	動作法における動作課題への取り組み方の変容と成功期待との関連 —知的障害を持つ3名の男子学生との関わりを通して—
2008	田中 裕美	臨床心理	高齢者における自体感獲得と抑うつとの関連について —動作法による援助を通して—
2009	比嘉 大輔	社会福祉	石井十次の岡山孤児院実践における福祉観に関する研究
2009	上野 未由希	臨床心理	女子青年における性同一性と主観的 Well-being との関連の発達の検討 —HGS 邦訳版による性の確信度の測定の提案—
2009	奥間 めぐみ	臨床心理	過去のいじめ体験が自己意識及び認知的な面に及ぼす影響についての研究
2009	仲宗根 恵	臨床心理	発達障がいのある子に対する親のかかわり方における認識過程についての研究 —親の会会員の語りから—
2009	宮城 千賀子	臨床心理	看護師のバーンアウトに影響を与える意識要因について —Sense of Coherence、主観的幸福感、5 因子性格傾向との関連から—
2009	山城 綾香	臨床心理	大学生の認知する親子関係と境界例心性との関連 —心理劇を用いた親子関係認知変容へのアプローチ—
2010	與那嶺 君枝	社会福祉	職業アイデンティティと定年退職後に描く「生きがい」に関する研究 —永年勤続のプレ高齢期看護職者を対象とした半構造化インタビューを通して—
2010	伊志嶺 将登	臨床心理	重要な他者との関係性からみた対人関係能力の研究 —社会的スキルとの関連について—
2010	川西 玲子	臨床心理	教職志望大学生のいじめの認識へのグループアプローチ
2010	玉城 水奈美	臨床心理	楽観的説明スタイルが怒りのコントロールに及ぼす影響
2010	照屋 葉月	臨床心理	心理教育を併用した表情の表出操作課題によるシャイネス傾向改善の試み
2010	前田 愛	臨床心理	児童養護施設のプレイセラピーにおける初学者の「戸惑い」の分析
2011	赤嶺 遼太郎	臨床心理	大学生における向社会的行動の抑制・促進要因の検討 —シャイネスとソーシャルスキルとの関連—
2011	大城 賢史	臨床心理	抑圧型コーピングスタイル者の身体的な脅威刺激に対する脅威性の評価と身体的自覚症状の検討

2011	甲斐 百合絵	臨床心理	青年期における対人関係（親子関係と友人関係）とパライド傾向との関連 — 児童期と青年期における評定の比較 —
2011	八幡 真生子	臨床心理	不注意、多動性、衝動性傾向の高さと大学生活の適応に関する研究
2011	福原 杉子	臨床心理	「気になる子」の問題行動と教師の困り感軽減の試み — 機能的アセスメントによる介入 —
2013	儀間 弘子	社会福祉	ある精神障害者就労支援事業所におけるライフストーリーの研究 — 利用者と支援者の間に「親密圏」は存在するか —
2012	赤嶺 利枝	臨床心理	特性不安，社会的比較過程が被害的思い込み，および従順的ふるまいに及ぼす影響
2012	新井 理美	臨床心理	問題行動のある少年の立ち直りに関する研究
2012	宜保 英理	臨床心理	喫煙行動の変容過程 — 高校生および大学生への禁煙教育の実施過程の分析 —
2012	國仲 真理子	臨床心理	筋ジストロフィー患者のポジティブ感情を促進する要因の検討
2013	小賀 さな江	社会福祉	百寿者の主観的幸福感と老年的超越との関連性について — 沖縄における女性事例を通して —
2013	大城 良子	臨床心理	がん入院患者における不安と抑うつの研究
2013	園田 陽子	臨床心理	里親の意識構造についての研究 — 里親の語りの分析 —
2013	仲本 夏子	臨床心理	価値の明確化が心理的 Well-being とポジティブ感情に及ぼす影響に関する研究
2014	宮里 祐子	臨床心理	不登校傾向のある生徒における学級復帰過程の質的研究
2013	吉浦 悟史	臨床心理	高次脳機能障害のための遂行機能訓練
2014	安里 真由子	臨床心理	大学生における自閉症傾向と表情認知の関連 — AQ と対人不安・困り感と表情認知の視点から —
2014	浦崎 安規	臨床心理	動作部位における身体変化と感情の因果関係の研究
2014	大城 梨良	臨床心理	聴覚障害を持つ人における心理的適応に関連する要因の検討
2014	喜屋武 弓子	臨床心理	大学生のアレキシサイミア傾向と感情を表す言葉の関連
2014	佐久本 夢来	臨床心理	定時制高校における禁煙教育の効果の検討 — 喫煙意識・喫煙行動の変容に着目して —

2015	新里 円	臨床心理	がん告知による時間的展望の変化と抑うつ傾向の関連
2019	仲宗根 那美子	臨床心理	アレキシサイミア傾向の測定 ―質問紙法と投映法を用いて―
2016	宮城 りら	社会福祉	医療機関所属のベテラン PSW のニーズアセスメント過程の研究
2016	稲嶺 杏奈	臨床心理	妊娠の捉え方と健康意識の変化が妊婦のセルフケア行動に及ぼす影響 ―喫煙行動変容に着目して―
2015	呉屋 るり葉	臨床心理	大学生の学生相談機関への相談過程についての研究
2016	高江洲 芹菜	臨床心理	大学生のセルフケア能力と健康統制の所在が喫煙に対する意識に与える影響について
2015	野原 莉里子	臨床心理	通常学級に在籍する「気になる子」の問題行動に対する機能的アセスメントによる介入 ―教師の困り感・学級全体の関連について―
2015	吉村 直樹	臨床心理	ジストロフィン異常症を持つ入院患者の認知機能・コミュニケーションの特徴・被援助場面での感情体験と QOL との関連
2017	伊禮 輝	臨床心理	対人サービス業務における地方公務員の情緒的負担感に関する研究―感情労働の視点から―
2016	上地 楓子	臨床心理	過剰適応傾向者の自身の心理特性に対する自己認知と精神的健康との関連
2017	金城 真紀	臨床心理	青少年センター等の教育相談員が認知する困難さとキャリア展望
2016	比嘉 陽介	臨床心理	マインドフルネスとセルフ・コンパッションが大学生の抑うつと認知的反応性および精神・身体的健康に与える影響 ―マインドフルネス瞑想による介入を通じて―
2016	與座 詩織	臨床心理	両親離婚後の面会交流が子どもに与える影響の検討 ―心理的健康・対人関係との関連及び子どもの体験の語りから―
2017	赤嶺 咲	臨床心理	養護教諭の役割意識と支援実践に関する質的研究 ―保健室登校児童・生徒の支援を通して―
2017	大城 貞則	臨床心理	マインドフルネス瞑想の実践期間の違いがストレス耐性及び精神的不調に対する効果と持続に及ぼす影響 ―ストレス・不安・抑うつ・気分の観点から―
2017	大城 勇輝	臨床心理	大学生における内的作業モデルが境界例心性に及ぼす影響について
2017	仲里 沙希子	臨床心理	統合的葛藤解決スキルが過剰適応傾向に及ぼす影響 ―統合的葛藤解決スキルプログラムの試行と効果―
2018	知念 建斗	臨床心理	動作法による自主訓練が自体感と精神的健康に与える影響 ―漸進的筋弛緩法との比較を通して―

2018	西原 裕美	臨床心理	女子青年における「個」と「関係性」のアイデンティティ形成 — 母娘関係における精神的自立との関連 —
2018	宮里 小真紀	臨床心理	筋ジストロフィー患者の病の捉え方と自己決定における心理的プロセスの検討
2020	大城 花織	臨床心理	認知的感情抑制が精神的健康に及ぼす影響 — 自己の感情への気づき, ネガティブ感情強度を調整要因とした検討 —
2019	新里 知香	臨床心理	注意のコントロールが抑うつ・不安へ及ぼす影響 — 注意訓練とマインドフルネス瞑想の比較 —
2019	普天間 優子	臨床心理	沖縄県の高齢者における社会機能と諸認知機能の維持について — 遂行課題実施中における脳の賦活状態を指標とした検討 —
2020	高良 美帆	臨床心理	女子青年における葛藤と自立に関する研究 — 親子間の葛藤と青年の対処に着目して —
2020	中川 裕紀子	臨床心理	教師のストレスが精神的健康に及ぼす影響について — レジリエンスとの関連性からの検討 —
2020	池宮 将貴	臨床心理	時間的連続性の認識が動機づけにおよびセルフ・コントロールに及ぼす影響 — 展望地図法による介入 —

